

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成22年2月16日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0270600315
法人名	社会福祉法人 義乃会
事業所名	グループホームなかよし荘
所在地	十和田市深持字南平312-4 (電話) 0176-20-1656
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成 21年9月24日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年12月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.7人	

### (2)建物概要

建物構造	木造長尺カラ―鉄板横葺造り平屋建	
	階建ての	階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		円

### (4)利用者の概要( 9月24日現在 )

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	石川医院(内科・胃腸科・循環器科)、高屋歯科医院(歯科)
---------	------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には清流に沿った公園や中学校などがあり、地域の祭りに出かけたり、中学校の運動会や文化祭を見学するなど、積極的に周囲との関わりを持っている。また、運営推進会議には、地区民生委員や町内会長、中学校校長等が参加しており、地域との関係を深めながら、利用者の生活を支援している。

年度初めに、全職員の思いを集約して理念を見直しており、今年度は「その人らしさの追求」という目標を掲げている。担当職員が中心となって詳細なアセスメントを実施し、利用者一人ひとりが希望や楽しみ、生き甲斐を持って暮せるよう支援している。また、「利用者権利擁護指針」を掲げ、利用者の権利を守ったケアを心がけている。

毎日の医療行為を必要としない場合は、重度化や終末期のケアに対応しており、常勤の看護師と準看護師、医療機関との連携を図りながら、利用者や家族が安心して生活できるよう支援している。

オンブズマンを導入したり、年1回の家族交流会を実施するなど、利用者・家族の意見や要望を吸い上げる取り組みを行っている。

居室には、家族の協力を得て、お茶道具や座椅子等が持ち込まれているほか、職員の工夫により、家族の写真や利用者の作品等が飾られ、居心地の良い空間となっている。

### 【特に改善が求められる点】

日常生活自立支援事業や成年後見制度について全職員が理解するまでには至っていないので、事例を取り上げた内部研修等を実施したり、専門知識のある講師を招く等の取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に改善策等を検討しており、やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は、理由等を記録すると共に、家族と同意書を交わす体制を整備するなど、より良いケアに向けて具体的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>内部研修等を通して全職員が評価のねらい等を理解しており、日々のケアを振り返る機会と捉えている。自己評価項目は全職員が分担して記入し、それを土台に職員会議やミーティングの場で話し合っ完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には利用者や家族、町内会、民生委員、市担当課、隣接する中学校長等が参加しており、自己・外部評価の結果や改善策等を報告している。地域防災対策の一環として、日赤奉仕団の協力を得て災害時炊き出し訓練を実施する等、運営推進会議で話し合ったことを今後のケアにつなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月の暮らしぶりを掲載した“なかよし便り”を家族に送付したり、面会時や運営推進会議、年1回の家族交流会等を通して、家族の意向を引き出すよう努めている。ホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、1～2ヶ月おきにオンブズマンを受け入れるなどの取り組みも行っており、家族から意見や要望等が出された時は職員会議で話し合うなど、今後のケアサービスにつなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の旧知の友人などが季節の野菜を手にとり時々訪ねてくることがある。また、法人恒例行事である夏祭りには、近隣一帯にチラシを配布して参加を呼びかけ、住民との交流を図っている。法人として毎年「地域研修会」を開催しており、認知症サポーターの普及や地域包括支援センター等との連携により研修を開催するなど、ホームの機能を地域に開放している。中学生の職業体験等も受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>職員一人ひとりの利用者に対する思いを一つの理念にまとめ上げる課程で、全職員が理念を共有している。</p> <p>虐待等について書かれた「利用者の権利擁護指針」を掲げており、それをマニュアルとして、虐待のないケアに取り組んでいる。</p> <p>重要事項説明書に職員の質の向上に向けた姿勢を明記しており、年間研修計画を作成し、個々の力量や経験に応じた研修に職員を派遣している。研修後は報告書を提出し、職員会議等の場で伝達講習を実施するほか、法人内研修も数多く開催している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>自宅訪問などにより、利用者・家族の意向や状況を把握すると共に、本人との信頼関係を築くよう努めている。また、個々の事情に応じた方法を模索し、安心してサービスを利用できるよう支援している。</p> <p>利用者との日々の関わりを大切にケアを心がけ、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、生活歴等から得意なことなどを把握しており、食事準備などの場面では利用者と職員が一緒に作業するなど、支え合う関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>担当職員が中心となって詳細なアセスメントを実施し、介護計画作成時に反映させており、個別具体的な介護計画となっている。また、4ヶ月毎に見直しを行うほか、利用者の状態や家族の希望等に変化が生じた場合は随時見直しを行う体制となっている。</p> <p>看護師を配置して医療連携体制を整えるほか、医療機関との連携を図り、定期受診や日常の健康管理の支援を行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりの日常のふれあいを大切にしており、一人ひとりが楽しみややりがいを実感できる支援を心がけている。</p> <p>利用者と職員が同じテーブルを囲み、同じ食事を摂っており、様々な会話を交わしながら、さりげないサポートを行っている。</p> <p>運営推進会議を通じて、地域住民に災害時の協力を呼びかけるほか、日赤奉仕団の協力を得て、炊き出し訓練を実施している。また、定期的な避難訓練を実施したり、飲料水や乾パン、携帯燃料等の備蓄品を用意している。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。年度初めに全職員で理念を考えており、今年度は、地域に根ざし、その人らしい暮らしを追求しようという方針を基に作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりの利用者に対する思いを一つの理念にまとめ上げる過程で、全職員が理念を共有している。また、日々のケアを振り返るために、ミーティングや会議を通して、更にその意味を深めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	利用者の旧知の友人などが季節の野菜を手にとり訪ねてくることがある。運営推進会議を通じて、法人の評議委員である近隣住民や民生委員、町内会長、隣接する中学校長等との関わりを深めるほか、近くを流れる稲生川まつりのイベントに参加したり、中学校の運動会や文化祭に出かけるなど、地域資源を活かした取り組みを行っている。また、法人恒例行事である夏祭りには、近隣一帯にチラシを配布して参加を呼びかけ、住民との交流を図っている。法人が、地域包括支援センターと連携を図って「地域研修会」を開催しており、認知症サポーターの普及と共に、ホームの機能を地域に開放している。中学生の職業体験や専門学校生の実習も受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部研修等を通して全職員が評価のねらい等を学習しており、日々のケアを振り返る機会と捉えている。自己評価項目は全職員が分担して記入し、それを土台に話し合い、完成させている。また、外部評価の結果を基に、改善案などを職員会議等で検討し、今後のケアに活かしている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者や家族、町内会、民生委員、市担当課、隣接する中学校長等が参加しており、自己・外部評価の結果や改善策等を報告している。地域防災対策の一環として、日赤奉仕団の協力を得て災害時炊き出し訓練を実施する等、運営推進会議で話し合ったことを今後のケアにつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月毎に開催している運営推進会議には、市担当職員が欠かさず参加している。また、パンフレットを配布したり、自己評価・外部評価結果を報告するなど、ホームの現状を伝えている。利用者に関わる諸問題を相談するほか、介護度の重度化に伴って改築した際にも積極的に相談する等、問題解決に向けて連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者やホーム長は制度を理解しているが、内部研修等を実施する機会がなく、全職員が制度を理解するまでには至っていない。	○	職員会議やミーティングの場を利用し、事例検討を含めた内部研修を実施するほか、外部研修に職員を派遣したり、専門知識のある講師を招く等の機会を設け、全職員が制度について理解を深めることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修会を実施したり、「利用者権利擁護指針」を作成している。管理者は職員の日々のケアを観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待に関する職員アンケートを基に、職員会議やミーティングの場で事例検討する等の取り組みも行っている。虐待を発見した場合に備えて、報告の流れや対応方法の取り決めが作成されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書にそって分かりやすい説明を心掛け、利用者や家族の意向を引き出しながら理解と同意を得ている。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ると共に、退居後の暮らしに関する情報を提供する等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや行事の様子、受診状況、職員の異動、担当職員の一言通信、利用者の写真を掲載した「なかよし便り」を発行しており、毎月家族に送付している。また、金銭管理状況は出納簿に記録しており、領収書を添えて毎月報告している。健康状態等に関する特変時には、その都度電話で連絡している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が話しやすい雰囲気を作るほか、年1回家族交流会を実施するなどの取り組みを行っている。重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示し、家族への周知を図っている。オンブズマンを導入したり、苦情や要望等が出された時は会議やミーティングで話し合うなど、今後のケアに反映させる仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者を始め全職員が、職員の異動や環境変化が利用者にも与える影響の大きさを理解している。日頃から2つのユニットで交流を図るなど、異動による利用者への影響に配慮した支援を行っている。また、異動や新人職員を配置する時には、利用者にも十分説明すると共に、職員間での引き継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	重要事項説明書に職員の質の向上に向けた姿勢を明記しており、年間研修計画を作成し、個々の力量や経験に応じた研修に職員を派遣している。研修後は報告書を提出し、職員会議等の場で伝達講習を実施するほか、法人内研修も数多く開催している。また、業務上の悩みについては、法人内の管理職や外部の同業者等に相談する体制となっている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者協議会に加盟して各種研修会等に参加しており、同業者同士の連携を図っている。また、交換研修などで得られた情報を日々のケアで活かせるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問などにより、利用者・家族の意向や状況を把握するとともに、本人との信頼関係を築くよう努めている。また、個々の事情に応じた方法を模索し、安心してサービスを利用できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日々の関わりを大切にするケアを心がけ、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、生活歴等から得意なことなどを把握しており、食事準備などの場面では利用者と職員と一緒に作業するなど、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごすことで、一人ひとりの生活歴や性格、希望等を把握している。また、家族や関係者からも情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向等を把握した上で、担当職員と計画作成担当者が中心となって、全職員で話し合いながら介護計画を作成している。計画は、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、4ヶ月ごとに見直しを行っている。毎月の評価を実施し、継続的に再アセスメントを行っており、見直し時に活かしている。また、利用者の状態や利用者・家族の意向等に変化がある時は、随時見直しを行う体制となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に	看護師を配置して医療連携体制を整えている。また、家族に代わって受診時の送迎を行ったり、利用者の希望を聞きながら外出するなど、利用者や家族の要望に柔		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメントにより、入居前の受診歴を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関、協力医療機関での受診を支援している。また、かかりつけ医や協力医には気軽に相談できる体制となっている。家族の希望により受診時に同行することもあり、受診後は電話等で随時報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎日の医療行為を必要としない場合は、重度化や終末期のケアを提供する旨を重要事項説明書に明示しており、入居時に利用者や家族に説明している。また、看護師や医療機関との連携を図りながら、利用者や家族の意向にそった対応ができるよう、意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者権利擁護指針」の中に、利用者を尊重したケアを提供することを明記しており、その実現に向けて全職員が取り組んでいる。内部研修等で個人情報保護法について理解を深めており、個人情報の保管等に注意を払っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、その日の希望や心身の状態に合わせたケアを提供するよう努めている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに配慮し、代替食を提供するなどの支援を行っている。利用者の力量を考慮し、調理や下ごしらえ、食器拭き等を一緒に行っている。職員も同じテーブルで同じ食事を摂っており、様々な会話を交わしながら、さりげないサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴習慣や羞恥心等に配慮し、負担のない入浴時間の提供を心がけている。また、ほぼ毎日入浴できる体制であり、利用者の希望に対応している。入浴を拒否する利用者には声がけを工夫したり、日を替えて誘導する等、柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の関わりを通して、生活歴や力量等を把握している。食事の支度や片付け、野菜作り、花壇の世話、籠作りなどの作業を日課として取り入れ、個々に応じて促し、役割や楽しみごとにつなげている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や身体状況に応じた移動手段で、初詣やお花見、買い物等に出かけるほか、隣接する中学校の運動会や文化祭の見物、地域の祭り見物等に積極的に出かけている。また、利用者の希望を聞き、家族の墓参りに出かけるなどの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等を通して身体拘束に関する理解を深めている。また、拘束は行わないという認識で全職員が日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は理由を明確にし、経過等を記録するほか、家族との同意書を交わしている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、居室も施錠はしていない。外出傾向のある利用者には見守りを行い、職員が付き添って散歩するなどの支援を行っている。また、無断外出時に備えて、近隣の中学校や住民に協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いのもとで昼夜を想定した避難訓練を実施するほか、日赤奉仕団の協力を得て、災害時炊き出し訓練も実施している。また、災害発生時に備えて、飲料水や乾パン、携帯燃料等を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の助言を受けながら、職員が栄養バランスを考慮した献立を作成している。また、食事や水分の摂取量を把握しており、必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防・早期発見・対応マニュアルを整備しており、法人内研修や職員会議、ミーティングの際に学習の機会を持っている。また、マニュアルは必要に応じて見直しを行っている。行政や保健所から最新情報を収集しており、職員に伝えるとともに、ホーム便りやホーム内への掲示により、家族にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下にはベンチが置かれており、明るい食堂ホールには畳敷きの小上がりが設置されている。また、冬場は小上がりにコタツが置かれている。大きな窓からは自然光が入り、職員の立てる物音やテレビ等の音量も適切である。玄関には季節の花を飾る等、季節感にも配慮している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族への働きかけにより、居室には、お茶道具や座椅子、テーブル等が持ち込まれている。また、家族の写真や趣味の生け花の作品等も飾られており、一人ひとりにとって居心地の良い空間となっている。		

※  は、重点項目。